

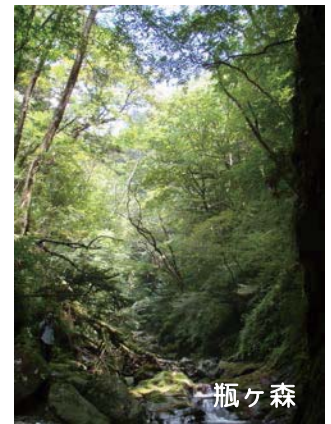
吉野川で遊ぼう！！



四国三郎の郷（徳島県美馬市）

こんにちは 川遊び大好きアクティブ系河川管理者「遊び人のM」です。
吉野川で遊ぼう！！では、自ら体験し、川を楽しみ、感じたことを発信します。
第3回は「吉野川中流キャンプ&カヤック」です。

吉野川の長さは 194 km。源流は高知県の瓶ヶ森（標高 1,896m）にあります。このうち、池田ダム下流から河口までの 77.69 km を国土交通省徳島河川国道事務所が管理しています。



瓶ヶ森

池田ダム下流（三好市）からスタートし、道の駅「藍ランドうだつ」（美馬市）の 32.7 km を 2 日かけて漕ぎできました。



カヤックをはじめた頃から、吉野川の国管理区間を漕いでみたい！と思っていましたが、ホワイトウォーターと呼ばれる激流下り(右写真)をしているメンバーでは「トロ場※ばかりだからな〜」と言って、誰も行こうと言いません。

「1人じゃつまらないな〜」と思いこれまでなかなか漕ぐ機会がありませんでした。



大歩危 国境の瀬 (徳島と高知の県境)

アクティブ系河川管理者を名乗る以上「吉野川国管理区間を漕破しなければならない！」と勝手に思い込み、77.69kmをチャレンジすることとしました。

※トロ場とは？

淵の下流側にあるやや浅く流れが穏やかな場所。通常、河川は淵と瀬が交互に並んでいる場合が多い。

詳しく分ければ、上流から淵、とろ、平瀬、早瀬の順に並び、それを繰り返す。

トロ場は、とにかく漕がないと進めないで、体力勝負です。激流好きには、刺激不足…

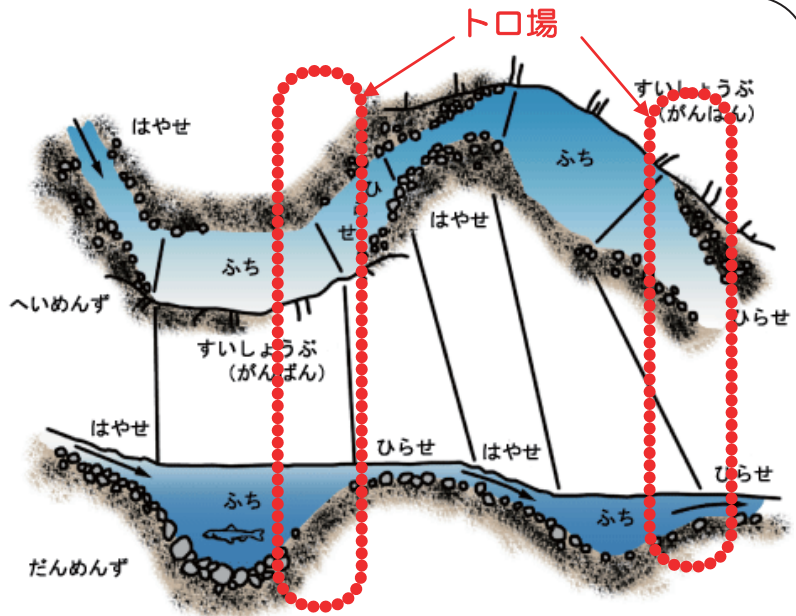


図 中国地方整備局太田川河川事務所 HP より

吉野川ハイウェイオアシス (東みよし町)



吉野川ハイウェイオアシスと美濃田の淵

吉野川ハイウェイオアシスは、徳島自動車道の吉野川 SA に隣接し、吉野川屈指の名勝「美濃田の淵」を背景にした全国でも数少ない、大河に隣接したハイウェイオアシスです。

今回、ハイウェイオアシスに川からアクセスしました。公園や施設を利用していた人たちも、川から上がってくる私たちに珍しそうに見ていました。

大きな淵になっており「川の駅・水の駅」と呼びたい場所でした。

☀️体験レポート① (from ISE)

こんにちは、ISEです。カヌー&キャンプを体験してきました！
9月は吉野川上流（高知県本山）でしたが、今回は徳島県池田からのスタートです。
池田ダムを背にLet's カヌー♪



今回のコースは18キロという長い距離になり体力と気力がもつのかと不安いっぱいスタートでした。

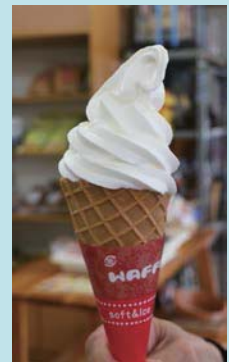
私が乗ったのは二人乗りのゴムボートで、二人の息が合わないとクルクルとボートが回り、うまく前に進みません。最初は難しかったですが、時間が経つにつれスイスイとすすむようになってきました。

しかし、距離が長く流れがないため、体力が奪われ次第に漕ぐ力がなくなってきました…

そんなとき、休憩地点の吉野川ハイウェイオアシスが！

お昼ご飯のあと、吉野川ハイウェイオアシス限定の「金のソフトクリーム」（鳴門金時＋和三盆糖＋濃厚ミルクの組み合わせ）を食べ、元気を取り戻し「残り頑張ろな！」と励まし合いながら下りました。

スタートから8時間。ゴールしたときの達成感は忘れられません。



そして、もう一つのお楽しみのお四国三郎の郷キャンプです。

テントをテキパキと張り（実は前日にテント張りの練習したんじょ笑）、料理に取りかかりました。ゆかねえさんが絶妙な焼き加減でローストビーフを焼き、うめねえさんは初めてのパエリアをレシピを見ながら、最初は失敗？した見た目でしたが、なんとか盛り返し、色鮮やかに完成させました。



2日目はカヌー一班と観光班で分かれ、私は「うだつの町並み（美馬市）」を観光しました。藍染めや和傘が作れる工房があり、時代劇に出てくるような民家が建ち並び、祖母の家に似ていて懐かしく感じました。

最後は、大人気のジェラート屋さん（阿波市）へ。夏場は季節限定など、日替わりで20種類くらいあるそうですが、私が到着した夕方には定番の2種類しかありませんでした。また食べたいなあ！と思える味で「これは売り切れる訳じゃ！」と納得しました。

今回の体験は、とても楽しくて、毎日カヌー&キャンプでもいいなあと思える休日でした（ISE）。

ISEさん、毎日キャンプはいかんだろ笑

☀️体験レポート② (from まじめな友人 N)

池田ダムから海まで・・・。

テントを積んで川を下る旅カヌーを始めたところからの夢でした。いつか制覇してみたいと頭の隅にありながら中々、実現しない区間でした。

今回、そのタイミングに恵まれ手を上げました。友人に池田ダムから下る話をすると、俺も俺もと参加者が増えまして、この長い区間の魅力の高さを感じさせます。



初日は、レポート①ISEさんのとおり賑やかに下りました。2日目は、四国三郎の郷から道の駅「藍ランドうだつ」まで、遊び人のMさんと二人旅です。延々と続く川岸林、水面は遙か彼方まで続いていて他にはない川の大きさを感じます。意外でしたが、この区間はカヌーで行くと堤防や集落などが、川からほとんど見えないんです。今、どこら辺にいるのかも解らなくて、自然の中をのんびり下るといった気持ち良さがありました。



漕ぐ以外やることもないんですが、ミサゴや釣り人の鮎を狙う姿をみたりしながら下って行きます。次回は水中めがねを持って行ってひっくり返って川の中を見てみようと思います。

川で食う昼飯はほんとにうまい。昨夜、失敗した？ホットケーキとキュウイを丸かじり。雄大な川を独り占め状態での食事は気持ちいいです。食後は、ぽかぽかで昼寝でもしたいなーと何だか眠くなってました。

そしてまた漕ぐ、漕ぐ。

スタートしたあたりは迫力有る瀬が、たまに来てペースもそこそこでしたが、下流に行くほどカヌーが座礁するくらいの浅い瀬が広がり、瀬が来たーという喜びよりも、突破するのに苦戦するようになって手で押しながら下る瀬が増えてきました。これも下って見ないと解らないもんですね。

ゴールが見えたとき、ここが次回のスタートになるんだなと次の区間へのワクワクが湧いてきました。まだまだ先は長いですが楽しみです。(遊び人 M のまじめな友人 N)

漕いでも、漕いでも変わらない景色
河畔林と山に囲まれ、広い水面の遠くに橋
橋を過ぎたらまた遠くに橋
ゴール（河口）まで 45km...

